第1回会議の御意見

滋賀県教育振興基本計画審議会
第２回会議　資料４

- 子どもたちが大人になってからも、それぞれその人らしく生きていけるように
- 大人が学び直す、学び続けることも大きなキーワード
- SDGsの「誰一人取り残さない」は教育における最も大事にしなければならないキーワード
  「海の豊さを守ろう」も外せない
- 滋賀の強みを生かす（特別支援教育、地域密着教育、環境教育、文化財・伝統行事）

- 学習指導要領の移行期間である
- 国語力はすべての学びの基盤
- 要点をとらえて文章を読み、考えを表現する力が不足
- AIやロボットが普及したときにどう生活を豊かにするのか、今、どう教育するのか
- 小、中、高に、産業界を巻き込んで多職種のキャリア教育を
- リスペクトすることが重要
  生徒－生徒
  ×
  教員－教員
- 子どもたちに、第一級の研究に触れさせて刺激を与える

- 近江の心の理念をどこまで浸透できたか
- 幼児の体力低下が課題
- 学校で運動指導が減っている
- 部活動等への「コーチング講座」の充実

- 特別支援学校の生徒増で校舎や教員配置の状況が悪くなってきている
- 特別支援学校の就労先が増えていない
- 高等養護と高校の交流により、生徒・教員とも理解が広がる
- 小中学校の運営に特別支援の知識が必要
- 特別支援学校の専門性向上

- 人生100年時代
- 一生わくわく学べる社会に
- 高齢者が生きがいをもち社会とかかわりをもって生きるための学び
- 教育、労働、余暇のステージに分けず、複線型ライフプランに（生涯学習体系）
- 人生100年を豊かに、充実して生きるために必要な力とは何かという点から考えられる課題は、①学ぶ意欲の向上と基礎・基本の定着、②豊かな人間性の涵養、③健やかな身体を育成、④社会の変化に対応する力の育成

- 主権者教育・消費者教育
- 親子でスマホの正しい使い方教育
- 「親を学ぶ・親を伝える」プログラム
- 防災教育、いじめ対策、不審者対策

- 地域コミュニティ活性化のための地域課題解決学習
- ふるさと学習、郷土学習を学校教育・社会教育両面で推進
- すべての県民の多様な学びの支援のあり方を検討

- 子どものときに読書の楽しみを覚えると生涯に影響
- 親子とも読書を
- 読書する子としない子の２極化
- 図書館により学社連携を

- 公立学校も時代が経っても変わらない建学の精神を
- 教員が勉強しやすく、希望を持てるように
- 教員不足
- 働き方改革の意図を正しく伝える
- 子ども一人ひとりに応じた課題設定と評価能力の向上

- 地域学校協働活動の推進
- 地域との連携により学ぶ力
- 子どもの自尊感情育成に親、先生、友達の他（大学生、地域の住民）との交流が必要
- 教（育）福（祉）連携の実施
- 地域・社会の教育力の再認識により人生100年を豊かに、充実して生きるために必要な力を育む

- 計画実施に必要な財政面、人員確保を明記
- 数値目標達成できなかった部分の反省必要